

修士論文(要旨)
2010年1月

中国語における日系外来語研究
—中国大陆と台湾のデータに基づいて—

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科
言語教育専攻
208J4011
田 溢昉

目 次

第1章	研究の背景と先行研究	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究目的	2
1.3	先行研究	2
1.3.1	日系外来語の定義	3
1.3.2	日系外来語の分類	5
第2章	中国語における日系外来語の流入史	8
2.1	中国大陸における日系外来語の流入史	8
2.2	台湾における日本語流入の歴史	10
2.3	中国大陸と台湾との日本語流入史の異同	12
2.3.1	共通点	12
2.3.2	相違点及び相違が発生する原因	12
第3章	日系外来語に関する意識調査	14
3.1	調査概要	14
3.2	調査結果	16
3.2.1	語源の判断について	16
3.2.2	日系外来語に対する態度	19
第4章	中国語における日系外来語による影響	20
4.1	新概念の導入	20
4.2	造語成分の活用	21
4.3	日系外来語における使用上の問題	23
4.3.1	表記の問題	23
4.3.2	意味理解の問題	24
4.3.3	仮名の借用問題	25
第5章	中国語における日系外来語の使用実態および今後の発展	27
5.1	日系外来語の中国語化改造	27
5.1.1	字形や発音の改造	27
5.1.2	語義の変化	28
5.2	日系外来語の定着度	29
5.2.1	日系外来語の使用頻度	29
5.2.2	流入期間と使用頻度との関係	32
5.2.3	新語と旧語の並存と競争	33
5.3	日系外来語における今後の展開	34
第6章	まとめ	36
6.1	結び	36
6.2	今後の課題	37
	参考文献	
	資料	
	謝辞	

要 旨

キーワード：日系外来語

行き来もままならなかった昔から、世界中で起きていることが瞬時に伝わるようになった今に至るまで日中両国の交流は続き、日中両言語の交流も千年以上の歴史を持っている。その間に日本は中国から漢字や漢語を輸入し、それらは現代日本語のシステムの形成に大きな影響を及ぼした。両国は漢字や漢語で深く繋がっているのだが、その日中言語交流史においてあまり知られていないことがある。それは、漢語の輸入国であった日本が、逆に輸出国でもあり、その輸出先がほかでもない中国だということである。

この事実を知れば、次には日系外来語がどうやって中国語に流入したのかや、流入後これらの語彙はどのような形で生き残っているのか、中国語にどのような影響を与えているのかや、中国語の一部になった日系外来語の未来はどうなるのかなど、たくさんの問題に関心が向く。

本研究では以上のような問題意識の下、日系外来語の中国語への浸透の歴史と現状を見つめ、中国語における日系外来語の使用実態や、中国語母語話者による日系外来語の捉え方などについての調査を行った。調査・分析を通じて、中国語における日系外来語の過去・現在・未来の具体像を描き、日中両国における言語の接触の一側面を探った。

本研究は次の部分から構成されている。

第一章 日系外来語の定義と分類について、学界で起きた論争を紹介し、本稿が採る立場を明示した。日系外来語の定義については、未だに学界では統一されていない現状にある。論議の焦点は日系外来語の認定基準にある。本研究では、従来の論説を整理した上で、日系外来語の借用に際して、「音」と「形」との二つの借用を日系外来語の認定における必須要素とし、「義」の借用を任意要素と位置づけた。稿者は日系外来語を「流入した時点で日本語から「音」と「形」の両方、あるいはどちらかを借用していた語は日系外来語と呼ぶことにする」と定義した。さらに、その定義に基づき、日系外来語の分類法を提示した。

第二章 中国大陸と台湾における日系外来語の流入の歴史をそれぞれ紹介し、両地域における日系外来語の吸収の共通点と相違点を分析した。両地域は19世紀末と1980年代以降の二度の日系外来語流入ブームを経験し、大量の日本語語彙を借用している点で共通している。一方、両地域ともに基本的に中国語を母語としているが、対日関係、政治制度、方言の違い、マスメディアなどの影響によって、日系外来語の浸透状況において異なっている部分が見られた。

第三章 上海と台湾で実施したアンケート調査のデータ分析から、中国語母語話者における日系外来語への意識、そして、日系外来語に対する態度を究明した。調査結果からは、和製漢語の借用については、調査協力者にそれらを中国語として認識している傾向が見られた。そして、日系外来語の識別の正答率と協力者の日本語レ

第四章 ベルの間に、反比例的關係があることが分かった。また、日系外来語の流入に対する評価については、協力者の中で意見が分かれ、「さらに導入すべき」と「これ以上増やすべきではない」との二つの考えが示された。

第五章 アンケート調査で得たデータの分析に基づき、日系外来語による中国語への影響を分析した。まず、日系外来語の流入が中国語の語彙システムを充実させたことが上げられる。次に、大量の日系外来語の使用によって、表記の混乱、意味理解の困難などの問題が発生していることも判明し、プラスの影響とマイナスの影響が同時に起こっていることが分かった。

第六章 中国語における日系外来語の使用実態を調査した上で、日系外来語の今後の展開を予測した。中国語における日系外来語の使用実態は語彙の使用頻度、流入期間、代替語の有無などの要素に影響を受けていることが分かった。そして、日系外来語は単に借用されているだけでなく、中国語化という改造により、語義の増加や減少、または新語づくりなどの現象を起こしているのが見られた。さらに、日系外来語における今後の展開は、語彙それぞれの生存実態に影響され、一部の語彙が中国語の常用語になっていくのに対し、一部の語彙は廃語になる可能性があることが推測された。

第七章 本研究で述べてきたことをまとめ、今後の課題を提示した。

参考文献一覧

- 荒川清秀 (1998) 「日本漢語の中国語への流入」『日本語学』1998年5月号 明治書院
- 王 力 (1980) 『漢語史稿』 中華書局
- 王 铁钧 (2004) 「从音译法到转译法—日汉翻译笔法的历史流脉」『中国翻译』
- 王春 (2005) 「中国語の新語における日系外来語—(その1) 所属・形成及び分類について—」『国際シンポジウム比較語彙研究 ix. 語彙研究セミナーVI』浙江大学・語彙研究会
- 夏 小韵 (2005) 「現代漢語における日系外来語」『湖南师范大学日語研究论文集 2006』湖南师范大学出版社
- 郭伏良 (2002) 『新中国成立以来汉语词汇发展变化研究』河北大学出版社
- 葛 本儀 (1985) 『漢語語彙研究』 山東教育出版社
- 金 光林 (2005) 『新潟産業大学人文学部紀要』 2005年第17号
- 熊 文華・宋 小梅 (2006) 「关于日语的汉语外来词研究」『柳州职业技术学院学报』2006年第6卷
- 高 名凱・劉 正炎等 (1984) 『漢語外来詞詞典』 上海辭書出版社
- 高名凱・劉正炎 (1988) 『現代中国語における外来語研究』関西大學出版部
- 実藤恵秀 (1960) 『中国人日本留学史』くろしお出版
- 志村良治 (1982) 「日本語の語彙と中国語の語彙」『講座日本語の語彙第2巻 日本語の語彙の特色』明治書院
- 朱 晓云 (1986) 「中国語の中の外来語——日本語化ら借用したものを中心に——」東呉大学日本文化研究所修士論文
- 史 有為 (1991) 『異文化の使者——外来詞』 吉林教育出版社
- 周 洪波等 (2003) 『新华新词语词典』 商务印书馆
- 鐘 季儒 (2004) 「雑誌『日本文摘』からみた台湾の中国語における新外来語——日系外来語を中心に——」『日本語論究』7月号 和泉書院
- 沈国威 (1993) 『現代中国語における日本製漢語』 『日本語学』1993年7月号
- 沈国威 (1994) 『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容』笠間書院
- 張 昇余 (2001) 「現代中日語彙の交渉と異同研究」『日本語学研究文集』2001年1月号 西安外国語学院出版社
- 鐘 季儒 (2005) 「雑誌『日本文摘』と『台北ウォーカー』から見た台湾の中国語における新外来語—日系外来語を中心に—」『比較語彙研究の試み 13』語彙研究会
- 陳力衛 (2001) 『和製漢語の形成とその展開』 汲水書院
- 陳 生保 (2005) 『中国と日本 言葉・文学・文化』麗沢大学出版会
- 陳 仲奇 (2005) 「魯迅作品における日本語的表現要素について」島根県立大学『総合政策論叢』2005年第10号
- 陳 正保 (2005) 「中国と日本 言語・文学・文化」麗沢大学出版会
- 宮副ウォン裕子・マギー梁 安玉 (2005) 「香港の中国語紙における日本語」『国際シンポジウム比較語彙研究 ix. 語彙研究セミナーVI』浙江大学・語彙研究会
- 村上 嘉英 (2000) 「台湾閩南方言中来自日文的外来词」『天理大学学报』148期
- 李 小蘭 (2000) 「从中国史籍记载看中国人的日语知识」『汉字文化』
- 林 伦伦等 (2000) 『现代汉语新词语词典』花城出版社
- 李 国炎等 (2001) 『当代汉语词典』 上海辞书出版社